

東京の観光振興を考える有識者会議
ナイトタイム観光部会（第3回）
議事録

令和6年10月30日（水）14：00～15：00
都庁第一本庁舎33階特別会議室N6

【江村観光部長】

それでは、定刻となりましたので、これより東京の観光振興を考える有識者会議ナイトタイム観光部会の第3回を開会いたします。

本日は、御多忙の中御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

議事に入るまでの間、私、産業労働局観光部長の江村が進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

まず、本日の資料を確認いたします。

お手元には、議事次第、座席表、資料1の委員名簿、資料2の本部会の設置要領をお配りしております。資料3の部会における議論の概要の案、資料4の取組の方向性の案、資料5のナイトタイム観光に関する調査の概要につきましては、卓上のタブレット端末で御覧いただけます。また、第1回、第2回会議の資料につきましても同様にタブレット端末で御覧いただけます。

端末は御自由に操作いただけますが、事務局がページ送りを行った場合は皆様の端末にも同じページが表示されますので、あらかじめ御承知おきください。

本日は、5名全ての委員の皆様にご参加いただいております。植野委員はオンラインで御参加いただいております。

それでは、この後の議事進行につきましては牧野座長にお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

【牧野座長】

皆さん、こんにちは。今日も議論を深めていきたいと思っておりますが、本日は、これまでの部会での議論を取りまとめるということでやっていこうと思っております。まず、私のほうから、過去の2回、これまでの部会の議論についての概要を振り返りながら、そのまとめをお話しさせていただいて、その後で事務局から今後の取組の方向性について説明して、その後、意見交換という形で進めたいと思っております。

まず、私のほうから、これまでの議論のまとめということで振り返りをしていきたいと思っております。

次、お願いします。

これまで2回皆さんとお話ししてきたということになっていまして、まず第1回の部会では、事務局のほうに、資料のところで書いてありますとおり――すみません、次をお願いしていいですか。

今回、ナイトタイムの観光についての議論の大前提として幾つか前提を設定していただきまして、原則として午後6時から翌朝6時までを指したナイトタイムについての議論をするということで、まず時間帯の設定をしました。内容として、繁華街から豊かな自然まで多様な地域が東京にはありますので、様々なその特色を踏まえた取組の検討をするということ。あと、インバウンドの文脈でよくナイトタイムが語られることが多いのですが、日本人観光客も楽しみ

るナイトタイム観光ということの前提でしたというふうになっています。あとまた、働き手の確保が困難であるという現状も踏まえた上で議論をするということをしてきました。

その中で、主な論点として幾つか事前に設定したものがあまして、まず、海外との競争との比較での「東京ならではの」のコンテンツは何かということの論点だったりとか、民間・地域の取組をどう活性化していくかというようなことでしたりとか、あとはコンテンツですね、ナイトタイム観光の情報を旅行者に届けるには何ができるのかというようなことだったりとか、チケット等手配の課題と旅行者の安全・安心の確保、地域住民の理解というようなところを論点として議論したということになっています。

次のページ、お願いします。

第1回の部会で議論して、皆さんからいただいた意見をまとめて、さらに議論を深めるということで設定したテーマとしていまして、ナイトタイム観光における東京の国際競争力の強化とは何かということで、東京ならではの夜の魅力は何かということを議論していったというようになっています。その中で、その魅力は、海外の観光都市との比較ということを考慮した上で考えるということをしました。

2点目が地域や事業者と連携・協働したナイトタイム観光の実現ということで、集客で経済につなげていくということで、地元の人、住民の人たちにとって経済的なメリットもあるものにしようということだったりとか、とはいえ、生活と観光と両立するような観光振興でなければいけないのではないかというようなことを議論したりとか、あとは、経済的という意味で、民間事業者の関係者の皆様にとって、ビジネス展開ができて、かつ現状の課題は何かということを議論しています。

次、お願いします。

その中で、幾つか議論して4つ話ができたとおっしゃってまして、ナイトタイム観光における「東京らしさ」は何かということで、観光都市としてどういった特徴とか優位性が東京にはあるのかということ、単に東京のことを考えるだけではなく、先ほどからお話ししているとおり、海外との競争での比較の中での東京ならではのコンテンツは何かということをお話してきました。

その中で、皆さんからの意見で、ウォークアブルであったりとか、建築的なものに意味があるとか、生活の場、商店街とか飲み屋とかもコンテンツになり得るとか、既にもうコンテンツとかベニューはあるのでそこをうまく活用することだったりとか、東京の夜の楽しさは食・音楽・芸術ということでEAT、BEAT、ARTだったりとか、あと「締め」「ハシゴ」文化のような日本独自のものがあるというような意見が出ました。

次、お願いします。

次が旅行者を惹きつけるために何をすべきかということで、ナイトタイムを、今あるものを楽しんでいただくということだけではなく、さらに旅行者をひきつけて集客につながるようなことは何かということも議論して、その中で都として何ができるかという話をしました。

その中では、今あるものとして、地域の取組をさらに活性化するようなことで後押しするようなことをやったりというようなことをしたり、あとは、事業者の方々がナイトタイム観光を推進する上で必要なデータとか事例を提供することでより活発な活動を続けてもらったりとか、また、これは世界的にこのために東京に行こうと思うような印象的な旗印になるようなイベントをつくってみるといようなお話をしたりとか、そもそも「ブランディング、テーマ作り」ということで、東京がどんなナイトタイム観光都市になりたいかというブランディングとかビジョンのようなものが必要だということも意見として出ていました。

次、お願いします。

旅行者がスムーズに快適に夜を楽しむための必要なサポートということで、調査の結果等を見ていく中で、旅行者の人たちが東京のナイトタイムのどのような楽しみ方をしていいかわからないというのが課題というのが資料の中であったと思いますが、そこから見るに、どんな情報を発信すれば旅行者の方々に便利なのかと、受入れ環境もちゃんとできているのかというような課題を確認したりとか、その中で、チケットの手配も課題の1つとして議論するということをしていました。

情報発信に関しては、こんな様々な観光資源が東京にあるにもかかわらず、その楽しみ方がうまく伝わっていないので、情報発信を工夫することでやっていこうということと、あとは、実際にその場所に訪れても、言語の問題とか、そういったことのないように、受入れ環境も整えようというような話がありました。

チケットに関しても、どうやってそのチケットを見つけて簡単に購入できるかというところの課題もあるというような意見もありましたし、その多言語化ですね、購入しやすい多言語化みたいなものもやる必要があるというような話がありました。

次、お願いします。

最後に、住民や事業者との関係性がどうあるべきかというところを話していく中で、生活の場に観光客が入ってくるということで、住民の人たちにも観光への理解をしてもらうということも必要だという話があったりとか、あとは、事業者の人たちが何をやればいいのかというようなことを考えるきっかけを提供することであったりとか、あと、事業者と住民が一緒にもものをつくっていくことができるように、そういった場を提供することも必要だというような

意見があったと思います。

次へ行きます。

こうした皆さんからの意見をまとめた上で議論をまとめていくと、3つのものになってくるかなと思っていまして、東京のナイトタイム観光のバリエーションは豊富で、日常シーンも観光資源となり得るほか、独特で魅力的な文化・風習も有し、ポテンシャルは極めて高いと。旅行者へ丁寧に情報を届けていくことが既にあるので、それをうまくちゃんと伝えていくことが大事だということところが1点目です。

2点目は、東京の夜の楽しさに気づいてもらうためには、まず、その東京の夜を楽しもうと思ってもらうようなインパクトのあるイベントをつくっていくことで、それが東京に行く理由に、世界から来る理由になるようなものができることで、国際競争力の強化につながるのではないかなというところが2点目です。

最後は、先ほどもお話ししたとおり、行政が旗振りにはなるのですが、基本的に地域が取組を行って、住民・事業者が受け入れていって、さらに自分たちでつくっていくことができるようなことを一緒につくっていくことができればということが3点目というふうになっています。

これがこれまで議論してきた内容というふうになっていまして、これに基づいて今後の取組の方向性ということで事務局のほうで準備していただいていますので、事務局から資料の説明をお願いします。

【前田観光振興担当部長】

観光振興担当部長の前田です。

それでは、「東京のナイトタイム観光のさらなる充実に向けた取組の方向性」につきまして御説明させていただきます。

まず初めに、ナイトタイム観光の充実の意義でございます。

ナイトタイム観光の活性化は、旅行者の満足度向上や消費の拡大、雇用の創出につながります。東京の治安の良さを活かせるほか、観光需要の時間的な分散による日中の混雑緩和にも寄与いたします。世界では様々な地域が力を入れておりますので、ナイトタイム観光の一層の充実は、東京の観光都市としての国際競争力を強化し、世界最高の「PRIME観光都市・東京」をつくり上げていく上で不可欠だと考えております。

ナイトタイム観光において目指す姿といたしまして、「ナイトタイムも活気に溢れ、旅行者と都民が共に夜を満喫できる東京」とさせていただいております。地域の特色が活かされるとともに、旅行者だけでなく地域住民も「東京の夜」を楽しんでいる。都内各地で多彩なナイトタイム観光が楽しまれている。旅行者が安全・快適に東京の夜を堪能している。そんな姿を目指していきたいと思っております。

続きまして、取組の方向性です。

委員の皆様様の御議論を踏まえまして、3つの方向性でナイトタイム観光を一層推進してまいりたいと思います。まず1つ目は、地域に根差したナイトタイム観光の充実、2つ目は、民間の力などを活用した多彩な夜間コンテンツの提供、最後に、快適なナイトタイム観光に向けた旅行者のサポートの強化でございます。

まず、「地域に根差したナイトタイム観光の充実」です。

地域の特色を活かしたナイトタイム観光の振興としまして、繁華街から自然まで多彩な地域が広がる東京では、地域ごとに強みや解決すべき課題は異なっておりますので、地域に根差した観光振興が不可欠でございます。そこで、地元ならではの強みを活かし、地域が主体となって取り組む意欲的なナイトタイム観光をサポートすることで、効果的な誘客や消費の拡大を推進してまいりたいと考えております。

また、ナイトタイム観光を持続可能なものとするためには、地域住民の理解を得ることや、事業者の方々の課題意識を共有することも重要であると思います。そのため、ナイトタイム観光の振興における住民の生活環境等への配慮や、住民や事業者の方々との課題共有を促進したいと思っております。

次に、「民間の力などを活かした多彩な夜間コンテンツの提供」ですけれども、民間によるナイトタイム観光振興の活性化については、ナイトタイム観光の充実に向けて、民間事業者の方々の取組意欲を最大限に引き出すことが不可欠だと思います。また、効果的な誘客に向けては、旅行者の行動分析や海外事例を参考にすることも重要で、それらを踏まえまして、都内各地での夜の盛り上げに向けて民間等が主体となったイベント実施等を支援するとともに、旅行者の行動や意識に関する情報や海外先進事例の蓄積・共有によってビジネス展開を後押ししてまいりたいと考えております。

ナイトタイムを楽しめる場所や施設が豊富であるということは、東京の強みであります。光のコンテンツや文化・芸術など、旅行者の様々なニーズに応えていくため、プロジェクションマッピングを誘客や消費拡大に効果的に活用するとともに、都立の公園や美術館の活用、ユニークベニューの利用促進等により、旅行者に多彩な夜の過ごし方を提供したいと考えております。

最後に、「より快適なナイトタイム観光に向けた旅行者サポートの強化」でございます。

旅行者に対して、東京の多彩なナイトタイム観光に関するよりきめ細かなナビゲーションは重要です。エンターテインメントのチケットは、一部の劇場では多言語での販売を行っておりますけれども、外国人のスムーズな購入にはまだまだ課題がございます。そこで、東京の観光公式サイトの活用などによりまして、ナイトタイム観光についての情報提供やエンターテインメントの円滑な

チケット購入を推進したいと考えております。また、観光シーズン等を捉え、東京の夜の魅力を旅行者に効果的に発信をしてみたいと思います。

また、多言語対応や安全・安心の確保等の推進といたしましては、外国人旅行者から不満の声が上がっている言語の壁への対応や、東京の強みである治安の良さを担保する上でも、安全・安心の確保は必要でございます。そこで、宿泊施設をはじめとするインバウンドが利用する施設や店舗などでの多言語対応を推進するとともに、地域の実情に応じた旅行者の安全・安心の確保に向けた取組をサポートをしてみたいと思います。

続きまして、取組の方向性におきましても、旅行者の行動ですとか意識に関する調査の情報を共有させていただくという御説明をさせていただきましたけれども、やはりコロナ前とコロナ後ではなかなか状況も変わっている中で、データも十分になかったということにも直面しておりましたので、早速、今年の7月から8月にかけて、東京を訪れた経験のある海外在住の外国人の方々を対象にインターネットでアンケート調査を行いましたので、簡単にその結果を御紹介いたします。

まず、18時以降の夜間に行った夕食以外の活動ですけれども、18時以降、ほぼ全ての旅行者の方々も夕食以外にも何らかのアクティビティを楽しんでいました。活動といたしましては、一番多いのは買物ですけれども、その後、散策、それから観光名所の訪問というのも続きます。そしてまた、夕食とは別の店での飲食といったことで、結構飲食を楽しまれていると推測されます。

次です。夕食を食べ始めた時間は、17時から20時頃が多く、宿泊施設に戻った時間では、多くの旅行者は公共交通機関が動いている23時頃までには宿泊施設に戻っているという結果でございました。

続きまして、こうした行動を取った方々の東京のナイトタイム観光の満足度ですけれども、買物ですとかライトアップをはじめとしまして、おおむね全てのアクティビティで「満足」と答えた方が全体で8割を超えております。高い評価を今のところいただいていると思います。

一方で、そんな中でも不満を感じた点といたしましては、割合としてはそう多くはございませんが、言葉の壁、「言語の壁」を挙げた方が最も多い結果となりました。東京都としましては、外国人旅行者が利用する施設や店舗等での多言語対応につきましては、今までも取り組んでまいりましたけれども、これからは一層推進していく必要があると受け止めております。

海外の都市と比べた東京のナイトタイム観光への評価につきましては、この部会でも話題になりました食事のおいしさとか多彩な観光スポット、それから清潔さや治安の良さということに関して評価が高く、そして4番目はエンターテインメントの質の高さと続いています。

同様に海外の都市と比較した東京のナイトタイム観光の課題につきましては、

食事代が高額であるとか交通に関しての声はありましたけれども、際立って高い課題というのは特に見受けられなかったところでございます。

事務局からの説明は以上でございます。

【牧野座長】

ありがとうございました。

事務局のほうから、今後の方向性ということと最近行った調査結果ということの2点の説明をしてもらいましたが、これまでの議論の振り返りと今後の方向性と調査結果と、どれについてでも構いませんので、御意見とか御感想を教えてくださいたいということでしたり、これまでいろいろな御意見をいただいておりますが、補足としてこの部分がまだ言い足りていないというようなところがあったらぜひお聞かせいただこうと思っております。

まず、今日は順番でまず1回皆さんにお聞きしたいと思っておりますので、オンラインで御参加されている植野委員から発言いただければと思いますが、よろしくお願ひします。

【植野委員】

すみません、急遽出張が入ってしまいまして、私、今、高知におりまして、いきなり余談ですが、高知は今日外国人の方がすごく多いです。なぜかという、大型客船が台風を回避するために高知港に急遽入ったんですね。多くの外国人の方が街の中をいろいろ観光されています。

それを見て思ったのですが、高知市の中心は割と小さいのですが、アーケード街とか、ひろめ市場という本当に酒飲みのフードコートみたいなところがあったり、あちこち面白いものがたくさん街にあって、日常が本当に観光につながっている。だから、観光の方も普段から多いですが、突然多くの外国人の方が来ても、そういうアーケード街とか、いろんなところを楽しそうに見て回っています。

だから、やはりそれを見て思ったのは、日常にあるもの、日常の暮らしであるとか、食であるとか、ファッションであるとか、いろんなものが外国人の方にとっては日本ならではの文化として観光資源になり得るものであるということを感じたのと、あと、同時に思ったのは、高知は本当に小さい街なので、行くところが限られているので、皆さん同じところに来るのですが、それでもいろいろ地図を見たり、スマホを見たり、ガイドの人に聞いたりして、ちょっと迷ったりしているわけですね、突然寄港したということもあると思っております。いわんや東京の場合は本当にエリアが広くて、いろんなエリアがあって、有名なところはすごく分かりやすいですが、東京全体を俯瞰したときに、例えば外国人の方がとにかく東京は面白そうだから行ってみようといったときに――外国人に限らずですけど、じゃあ、どこに行って、どうすればいいんだろうというのは、やっぱり漠然としていて分かりにくい部分があると思っております。ですので、

今、例えば食だったら築地とか、道具街とかサンプルを見たければかつぱ橋とか、分かりやすいところもあるのですが、そういう分かりやすさというのも非常に重要だなと思いました。

これまでの皆さんの議論を今まとめていただいたもので、本当に基本そのとおりだと思いますが、日常とイベントみたいなもののバランス、あるいは、それらを全体俯瞰したときの継続性と普遍性、そして分かりやすさというものが非常に重要だなというふうに改めて思います。今後この議論を深めていく中で、そういう普遍性であるとか継続性であるとか分かりやすさというものをベースに、念頭に置いた施策、あるいはプランニング、スケジューリングみたいなものが重要だなということを改めて感じました。

以上です。

【牧野座長】

ありがとうございます。分かりやすさということで、築地の食とか、かつぱ橋の食のサンプルですかね、そういうような話を今お話しいただいたと思いますけど、やっぱり今回、先ほどお話ししたとおり、東京の夜で何をしていいか分からないというところの課題があったという意味では、こういった分かりやすさが必要だということだったのかなとお聞きして思いました。ありがとうございます。

では、次に、会場にいらっしゃる皆さんから発言していただきたいと思いますが、どなたか。齋藤さん、お願いします。

【齋藤委員】

ありがとうございます。

いろんな議論があったと思いますが、最後、3つの方向性にまとめていただいて、すごくよく整理してくださったのかなと思っています。そこに対して全く違和感はなく、そのとおりだなと思っています。

その上でお話ししたいなと思ったのは、その3つの方向性について、この後、具体的にどういう施策に落とししていくとよいのかなという点です。他の会議とかでも、議論はすごくよかったけれども、実際の予算事業や政策に落ちたときに何か違うものになっていってしまうという、そのギャップが起きることがあると思っています。お話をできればなと思ったというところですね。

特に地域に根差したナイトタイム観光の充実と民間の力などを活かした多彩な夜間コンテンツ、この2つについて、私のほうからもこの会議2回でお話しさせてもらったところなので、この2つについてお話しさせてもらえればと思っています。

最初の地域に根差したナイトタイム観光について、先ほどまとめていただいたとおり、東京はすごく広くて、自然もあれば、大都市もあり、大都市の個性も様々です。なので、地域ごとの個性、強み、楽しみ方というのはそれぞれで

すし、課題というのもそれぞれかなと思っております。なので、何か推進策に当たっても、地域単位での意欲的な取組を応援し、地域単位で動きを作っていくことが必要かなと思っております。

その中で、この会議の中で、ナイトタイム促進区というロンドンの取組などを参考に申し上げました。日本だと、政策実現の手段として、コンテンツ制作費やイベント制作費、プロモーション支援の予算といった事業費が多く出されることがあると思いますが、そのときに、取組みの主体としては単年度の事業でコンテンツ制作、イベント制作に追われていって、制作会社やPR会社をお願いをして、何とか納品まで持っていくみたいなのが割と多いのかなと思っております。そういったときに地域で意欲的な人たちが集まって今後も継続していけるような持続的な座組をつくっていく、その辺りのサポートがなされるということが単発の事業に終わらせずに持続的な地域の取組をつくっていくというところでとても重要かなと思っております。

地域の自主性を引き出して、公民一体で課題解決ですとか地域の価値向上に集中的に取り組んでいく、それがロンドンのナイトタイム促進区ですけれども、例えば地域ごとにどういう夜の社会を目指していけばいいのかといったブランディングだったりビジョンだったりというところを地域で合意形成していくのをサポートするようなものだったり、戦略ですとか計画というのをサポートしていく。その中で課題解決に資するような事業、例えば地域単位でのプロモーションだったり、地域での回遊性を高めていくような取組でしたり、そういったものをつくっていく。このように地域ごとに座組みづくり、ビジョンを定めた上で、実現にあたっての課題を特定し、課題を解決し、ビジョンを具体化するような事業を支援していくというのができると、その後も継続して取組が続いていくと思います。

あと、関連して、この部会での議論に対しては大きな反響がありました。、いろんな事業者だったり、住民の方だったり、クリエイター、アーティストの方だったり、ナイトタイムに取り組んでいる人たちの要望がかなりあり、そのような要望を上げられるテーブルが今までなかったということが改めて分かりました。なので、今回部会が終わったからもう窓口がなくなっていくということは避けるべきだなと思っておりまして、継続的に民間の声を吸い上げていって、さらに政策を磨き上げていくという、そういった仕組みが何か形づくられる必要があるかなと思っております。

これが海外だと、行政部局の中にあったり、ナイトメイヤー、夜の市長みたいな半官半民の中間支援組織があったりするわけですけれども、東京でもそういったものがあると、さらに今後も政策が磨き上げられていって、様々な人たちの声が政策に反映されていくと思います。

あとは、海外事例についてもいろいろもっと知りたいという声が上がって

ます。この部会でもいくつか先進都市の例を紹介しましたがけれども、各都市が、先進都市が何か単発でやっているというよりも、日々意見交換をしながら、お互いの情報共有、課題共有しながら取組みを実施しています。私たちのような民間の一部が属人的にやり取りがありますけれども、東京都として、海外の先進都市と関係をつくって、いろんな情報を得ていくことは、先ほどの有効な政策形成をしていくために、必要かなと思ったというところですね。

あと最後に、民間の力などを活かした多彩な夜間コンテンツの提供というところについて。もう既にTOKYO LIGHTSですとか都庁のプロジェクションマッピングなどは実施されていて、すごく大きなインパクトをつくっているわけですが、それに対していろんな民間の事業者がどう関わり代をつくっていくのか、それによって地域の経済効果をどう広げて高めていくのかが重要かなと思っております。先ほどの面的な展開とも少し共通するのですが、いろんな地域の事業がある中で、東京の都庁舎の例えばプロジェクションマッピングを活かした事業提案があるような、連携企画の提案に対しての支援の補助ですとか、関連事業をどうつくっていくのかというところも併せて設計していけるとよいのかなと思ったというところですね。

あとは、もう既に東京はいろんなコンテンツがあって、それらをうまく統合して連携させていくことによって、部会でも紹介させてもらったVivid Sydneyですとかリヨンの光の祭典に、東京はコンテンツ量では負けていないと思うので、それをどう連携させて東京都のブランドをつくっていくのかが重要です。それは行政でしかできないことだと思うので、個々の事業者の取組をどう東京都の取組としてまとめて昇華させて発信していくのかという、その全体のデザインみたいなところがとても重要かなと思ったというところですね。

以上になります。

【牧野座長】

ありがとうございます。地域に根差したナイトタイム観光に関しては、植野委員からお話のあったことと同じような形で、地域ごとの魅力的な魅力を活かした形でブランディングしていくという話だったと思いますが、その中で、単発的なイベント的な支援だけではなく、継続性を維持するサポートみたいなことは、これもまた継続性という話をさっき植野委員もおっしゃられていたので、何らか継続的に続いていくようなものを支援していくということが全体的に齋藤委員のお話では大事だったのかなと。それは民間の声を継続的に拾い上げていくような仕組みでしたりとか、海外からの事例を単発的ではなく継続的に得ていくようなことが必要だとか、そんなような御意見をいただいたと思っています。ありがとうございます。

では、次に、高坂委員、よろしいですか。

【高坂委員】

ありがとうございます。

まとめていただいた内容を拝見しまして、いろいろな議論を大變的確に手際よくまとめていただいて、お礼申し上げます。内容について、全く違和感なく拝見いたしました。

それで、付け加えるといいますか、感想めいたことを申し上げると、東京の多様なコンテンツ、多種多様で、また、地域性に富んだ、非常にバリエーションの豊富なコンテンツがあるというのは大きな魅力であるということは、私も皆合意するところだと思いますけれども、その豊富なコンテンツというのは、逆に言うと分かりにくさにつながりかねないという気がしております。

植野委員が高知へ行かれて分かりやすさが重要だということを改めて現地の様子を見てコメントしてくださったので、私もそれはそのとおりでと思いますし、それをどういうふうに、多様で、豊富で——本当に私はおもちゃ箱を引っくり返したようなと申しましたけれども、そういったような豊かさ、豊富さと、それから分かりやすさというのをどういうふうに両立をさせていくかということが大變重要になってくるのではないかと思います。

1つアイデアですけれども、コンシェルジュとか、それからトラベルデザイナーというような、日本ではあまりいらっしゃいませんけれども、海外では個人的な関心ですとか希望というのに応えて旅程をオーダーメイドで立てるようなプロフェッショナルの方がいらっしゃるそうですけれども、そういう個人の関心に合わせてナイトタイムをデザインするような、そういったような方を各地域にこれから育てていく、そういったような方たちが地域ごとの様々なコンテンツだとか過ごし方だとか、それから、もちろんトラブルなんかも起きると思いますから、そういうトラブルの解決の仕方であるとか、そういったようなことについて各地で情報交換をして、東京全体としてナイトタイムの受入れ能力というのを高めていくということが1つやり方としてあるのかなというふうに思います。

継続的な取組が必要という御指摘もございましたし、本当にそのとおりでと思いますけれども、そういったような人材を育てるといえるのは、なかなか一朝一夕ではできないことですし、息の長い取組が必要だと思われるので、こういう部分にこそ東京都が力を入れていただけると。もちろん、地域に今あるコンテンツをどうやって届けるかというようなプロモーションとか、そういうことも大事ですけれども、それを支える人材の部分についてもお考えいただきたいというふうに思います。

先ほど齋藤委員のほうから、海外のナイトタイムエコノミー関連のコミュニティがあって、そういうところでは極めて人と人とのつながり、属人的なつながりで情報交換がなされたり問題解決がなされたりするようなきっかけになるというようなお話がございましたけれども、日本でも、東京でも、そういうコ

ンシェルジュといますか、ナイトタイムデザイナーみたいなものを育成していくことによって、そういった海外とのコミュニティとの関連というのを強めていくということによって、日本・東京が世界的なナイトタイムの非常に魅力的な中心になる1つの突破口になるといいますか、チャンネルが開かれるのではないかなというふうに思っております。

【牧野座長】

ありがとうございます。人材育成が大事だということを御指摘いただいたと思いますが、分かりづらいからというのは本当にそうですね。そう考えると、今お話を聞いていて思ったのは、観光ガイドさんは、ナイトタイムに特化した観光ガイドさんというのもいらっしゃらないなというふうに思うので、恐らくやっぱり、これまで観光ガイドさん、あるいはコンシェルジュやトラベルデザイナーが必要なように、東京の夜のナイトタイムをどう楽しむかということを考えて伝える人が必要なので、そういった人の育成が必要だということはおっしゃるとおりだなと思ってお伺いしていました。ありがとうございます。

では、続いて、笹井委員のほうにお願いしたいと思います。

【笹井委員】

皆さんとも同意見ですけれども、まず、今回こうやってこれまでの議論をまとめていただいて、この内容に関しては全く違和感なく受け止めています。

ナイトタイム観光に関しては、今回が初めてではなくて、コロナ禍以前にも随分議論されてきたことではあります。今回、地域との連携でしたり、日常の中にいろいろな可能性があふれているという新たな視点が加わったことが非常に重要で、そういった視点をぜひぜひ活かして東京ならではのナイトタイム観光のあり方を追求していただきたいと思っております、というのがまず全体的な感想です。そして、今回アンケート調査の結果も見せていただきましたが、今後ナイトタイム観光の実態把握や施策の方向性確認といった振り返りのサイクルを回していく上で効果的に活用される仕組みになっていくといいなというのも、要望として申し上げておきます。

最後に、自分自身の領域であるライブエンターテインメントの視点から。東京にはナイトタイム観光に資するコンテンツが既に実はたくさんありますよねというような話を初回にさせていただきましたが、これまではどうしても、ナイトタイムとインバウンドの掛け合わせとなると、深夜の時間帯に外国人向けの新しいコンテンツをつくらなきゃいけないじゃないかというような発想になりがちだったところを、もう少し幅広い夜の時間帯に、インバウンドだけではなくて国内向けにも提供するのがナイトタイム観光だと再定義した途端、ナイトタイム観光の可能性が広がり、ハードルが下がったかなというふうに思っています。

もちろん、特にインバウンドに関しては、現状対応できていない解決すべき

課題がいろいろあるのも事実です。海外から、日本のライブエンターテインメント、舞台、コンサートが見たくて、それを目的に来られる方——ちょっとナイトタイムから時間帯が外れるかもしれないですが、いまでもそれなりの規模で存在していて、海外からのお客様に観に来ていただきたい事業者はもう既に訪日旅行者のニーズに対応しています。つまり、積極的に日本のライブエンターテインメントを見たい人、見せたい人に関しては、ある程度インバウンド対応が形になりつつあって——もちろん課題はたくさんありますが。じゃあ、ナイトタイム観光をエンターテインメントを含めてさらに盛り上げるためには、それを主目的に来る人だけではなくて、ほかの目的で来たけれど空いている夜の時間帯に、日本には、東京には夜の時間を楽しめるエンターテインメントがいっぱいありますよ、こんな楽しみ方もできますよ、という新しい提案——もともと日本のエンターテインメントにすごく興味を持っていて主体的に検索した人以外にもきちんと情報が届く、という仕組みが必要だと考えます。東京の夜の楽しさがちゃんと伝わって、新たな気づきにつながるような、そういった情報発信をやっていくべきではないかと思っています。

チケットの入手方法に関する課題はもちろんありますが、チケットイング以前の興味喚起、動機付けが大切だということです。先ほどの資料にありましたけれども、「GOTOKYO」みたいな公式サイトももちろんそうだし、それ以外にも、インバウンドの場合、訪日前に自国でいろいろ旅行関連の情報を調べる中でナイトタイム観光の情報が入手できるだとか、公式サイトに限らず国内外の民間の取り組みも交え、さらに柔軟にいろいろな知恵が集まってくるといいな、と思っています。いま申し上げたことが実現できるツールだったり、仕掛けだったり、あるいはそれを考え実行するプロデューサー、全体構想を考える人の存在がこれからは重要になってくるのではないのでしょうか。そうした人材を支援する意味でも、国内外の様々なナイトタイム観光の成功例をみんなで共有できるような場や環境も整備されていくといいかなとも思います。すみません、いろいろとばらばらと申し上げました。

【牧野座長】

いえ、ありがとうございます。特に今御指摘あったライブエンターテインメントが主目的でない人たちにどう伝えるかということは、これ全体の中で多分ナイトタイム観光をどううまく伝えていくかというところの課題だったという話が今回あったので、その部分は引き続き改善しなければいけない点ということで今お聞きしていました。

全体として皆さんから一旦御意見をお聞かせいただいたというふうに思っています、僕のほうで今聞きながら幾つかの話にまとめられるのではないかと考えています。

これ、先ほどの話もあったところではありますが、「既存のものを活かす」。

日常が観光資源だということがこの全体の話の中であったところなので、さつき植野委員がアーケード街という話をされていましたが、あとは、齋藤委員がおっしゃっていた既にあるイベント、TOKYO LIGHTSだったりとか、あとはProjection Mapping、そういったものをうまく活かして、もっと価値を高めていくみたいな、あるものを活かすというようなことの話だったりとか。

あとは、「分かりやすさ」ですね。多種多様な魅力だから逆に分かりづらくなりそうだというようなことが高坂委員から御指摘がありました。また、やっぱり全体が分かりやすいほうがいいのではないかということは、これも植野委員がおっしゃったところだと思いますけれども、分かりやすさというのが1つキーワードとして議論の中で皆さんのそれぞれ発言されたところだと思っています。その中で、築地が食、かつ橋、食のサンプルみたいなように、東京全体というよりは、むしろ各地域の区レベル、街レベルの中でブランディングをして、その地域の独自の強みとかよさとかを活かしていくということが大事なんじゃないかなというのも皆さん共通して御指摘されていたところだと思っています。

あと、「継続性」ですね。単発のイベントをつくるということではなく、継続的にその地域が活動を行えるようなブランディングのサポートとか、そういったことをしていくということの大事さの話でしたり、民間の声を拾い上げる仕組みをつくるとか、海外のほかの都市のナイトタイム観光の情報、事例を継続的に得ていくような仕組みということで、継続性みたいなことも課題ということで御指摘いただいたと思っています。

最後は、「伝える」ということかなと思っています、コンシェルジュやトラベルデザイナーということで高坂委員がお話しになった、これまでの議論の中で、ナイトタイム観光のコンテンツは既にあると、それをどうやって来てくれる観光客の人に伝えるかということが課題だということは、1つの大きな課題としてこれまでも議論してきたところなので、その中で、事務局の資料の中では、東京都の観光の公式サイトの中で情報を集約して発信していくというようなこともありました、それ以外にも、ナイトタイム観光をデザインするコンシェルジュやトラベルデザイナーといった人材育成をするということを通じて情報を伝えていくということだったりとか、その伝える内容の1つとして、ライブエンターテインメントが主目的ではない人に伝えるようにするというようなことがあったりするので、伝えるということも1つやはり課題としてやらなきゃいけないことで、そのアプローチというのは、必ずしもこういった公式サイトを作って情報を出すというだけではなく、人材育成までつながっていくような話かなというようにことだと思いました。

やはり皆さんとお話ししているいろいろな意見が集約されてきていいなと思って聞いてきているところですが、何か足りないなと思っているところでもし

御意見あればぜひ、さらにまだちょっと時間があるのでお話ししたいのですが、どうでしょうか。植野委員お願いします。

【植野委員】

すみません、これ、最後に言おうかと思っていたのですが、先ほど高坂さんからもお話がありましたように、本当におもちゃ箱を引っくり返したようにいろんなものがあって、じゃあ、それを具体的に紹介するのにコンシェルジュ的な人が必要というお話もありましたけど、コンシェルジュの方がいたとしても、あるいはSNS、ウェブで何か発信したとしても、言い方はあれですけど、それはもう本当にツールにすぎないです。すぎないと言っては申し訳ないですが、要するに何を目指すかという、ナイトタイム観光全体のデザインとかプロデューサーが必要だと思います。

なので、今皆さんがおっしゃったこととかぶってくるかもしれませんが、僕が勝手にイメージするには、東京全体のナイトタイム観光のプロデューサーがいて、あとディレクターがいて、デザイナーがいて、全体のそれぞれの地域特性とかエリア特性とかいろんな個性が、食からエンターテインメント、いろんな要素がある、コンテンツがある、それを、プロデューサーが全体を考え、ディレクターがディレクションして、デザイナーが東京のナイトタイムというのをデザインするということが必要かなと思って。それで、東京のナイトタイムというのが分かりやすくデザインされ、プロデュースされることによって、いろんなエリアのコンシェルジュの方々もそれにのっとった形でそれぞれの地元なり地域なりのナイトタイム観光、コンテンツを外国人の方、あるいは日本の旅行者の方に具体的に提案できるという、その統一性をつくるためにも、勝手ながら、そういうプロデューサー、ディレクター、デザイナーがいるというのが必要かなというふうに思っています。

もし、仮にですけど、そうなった場合に、それが世界的にも、東京というのは、ただ夜の観光をするだけではなくて、ナイトタイムディレクターがいる、ナイトタイムプロデューサーがいる、ナイトタイムデザイナーがいる街だというのは、1つ、それだけでも魅力というか売りになるのではないかなと思っていますので、勝手なイメージですけど、そんな体制があって、その上でいろんなツールを活用していったらいいかなというふうに思っています。

以上です。

【牧野座長】

ありがとうございます。この点は、恐らく齋藤委員も知見があるのでお話ししていただきたいと思えますし、先ほどから理念だけではなくどう実現していくかというところが課題だということでの御発言だと思うので、これに関してぜひコメントいただければ。

【齋藤委員】

おっしゃるとおりだと思いますね。先ほどあまり伝えられなかったかもしれませんが、例えば都庁や絵画館のプロジェクトマッピング、そういう大型のイベントをやるとしたときに、それを東京都としてどういう位置づけにしていくのか。例えばその時期に何か関連するイベントを横展開でいろんな地域で同時並行して開催をしていくとか、食のフェスティバル、音楽のフェスティバルなどをいかに連携させていくか。あれだけ大きな旗印となるようなプロジェクトマッピングをやっている中で、全体の位置づけを明確にして、波及効果ですとか、東京都全体のブランディングをしていく。その辺りを誰がやっていくのかというところが多分今見えていないので、植野さんの御指摘は本当にそのとおりかなと思っております。

どういうやり方があるのかというのは、いろいろあるとは思いますが、また海外の話で恐縮ですけども、海外の事例をもっと知るべきだと思います。アムステルダムだと、Amsterdam & Partnersという公民が出資をし合っている事業会社があって、そこが例えば「I amsterdam」というブランドキーコンセプトをつくっている。IとAmsterdamを掛けて、Iというのは、みんな、市民も事業者もアーティストも夜の人たちも全てアムステルダムの構成員であるだというプロモーションをし、夜という部分でも公式のプロモーションになって、戦略をつくっている。そこにはディレクターがいて、いろんな人たちの意見がそこで集約をされていっているということなのかなと思います。ロンドンも、London & Partnersという、そういう事業会社が公民でつくられていたりします。

そういうものが先ほどの継続的な中間支援組織みたいなものとして必要ですし、どうしても単発で個々のコンテンツ、イベントになりがちなものを統合していくというものとしては必要になると思います。各地域のブランドを際立たせて、差別化させて、地域ごとに面白いエリアを具体的に差別化させていくというのも重要ですけども、それを東京都としてどう統合させていくのかという、その全体のデザイナー、ディレクターというのがおっしゃるとおりとても重要ななと思っています。

【牧野座長】

ありがとうございます。

これはよく聞くところのナイトタイムメイヤー的なものが同じような位置づけなのでしょうか。

【齋藤委員】

そうですね、多分ナイトメイヤーもその中の機能の1つですよ。全体のデザインをしていくところだと、いろんな利害関係者の調整作業が必要になるわけですよ。その公民のコーディネートだったり、民間のいろんな業態のコーディネートだったり、住民とのコーディネート、利害調整ですね、そういったのをやっているのがナイトメイヤーです。

【牧野座長】

なるほど。ありがとうございます。

ほかに御意見はいかがでしょうか。大丈夫でしょうか。

では、意見はかなりまとまってきたかなと思いますし、皆さん方向性としては同じような形だったと思いますので、この形で一旦事務局に戻していきたいと思っています。

本当にいろんな御意見をお話しただいていまして、ありがとうございます。

資料にある案を先ほど事務局のほうから説明したところですが、今日の議論を踏まえて、さらにこれを改善した上でということで、東京の観光振興を考える有識者会議にこちらの部会の内容を報告しようと思っていますので、それですら一旦報告としたいと思っていますが、よろしいでしょうか。

(首肯する委員あり)

【牧野座長】

ありがとうございます。今回いただいた内容を反映させた形で部局がまとめてくれると思っていますので、お願いしたいと思っています。

この部会が、一旦これで取りまとめたということで、本日で最後の開催になるということで、今日は安部産業労働局次長から一言お願いしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

【安部産業労働局次長】

産業労働局次長の安部と申します。

委員の皆様におかれましては、御多忙の中、ナイトタイム観光の充実に関しまして、東京都が持つ特色や優位性、海外の取組事例、食やエンターテインメントの状況、また、本日は情報の分かりやすさであるとか継続的なサポートが大切であること、また伝えるということ、そして人材をしっかりと育てていくことなどについて様々な視点で御示唆に富んだ御意見をいただき、誠にありがとうございました。

また、牧野座長におかれましては、本当に限られた時間の中で円滑に会議を進めていただき、感謝申し上げます。

東京が観光都市としての国際競争力を強化していく上で、夜間観光のさらなる活性化は不可欠と考えております。この部会で御議論いただきました内容を踏まえ、地域の強みや民間の力を活かした効果的な誘客、旅行者へのサポートの強化、住民や事業者との課題共有など、多面的な取組を進めてまいりたいと考えております。

本部会は本日が最後の開催となりますが、委員の皆様におかれましては、今後とも御指導、御助言をいただけますようお願い申し上げます。本当に皆様ありがとうございました。

【牧野座長】

ということで、今回が最終回というふうな形になりますが、不慣れな座長にもかかわらず、皆さんに積極的で非常に活発な議論をしていただいたことで、かなりよい方向性がまとめることができたのではないかというふうに思っています。本当に御協力いただきまして、ありがとうございました。

東京の観光振興を考える有識者会議ナイトタイム観光部会の会議はこれで終了となります。ありがとうございました。